

群馬県内企業の雇用に関する調査

群馬経済研究所主任研究員 丸岡美智世

調査のポイント

人口減少時代を迎え、企業にとっては人材不足が経営課題となっていることから、県内企業における従業員の過不足の現状や雇用に関する課題、今後の対応についてアンケート調査を行った。

要約

- 従業員の過不足については、6割強の企業が人員を「不足」と回答した。業種別にみると製造業よりも非製造業で多く、雇用形態別には『非正規社員』よりも『正社員』で、職種別には『専門・技術職』『技能工』で「不足」が多かった。
- 今後の人員計画については「増やす」が6割で、その理由には、「慢性的な人手不足の解消」「社内人材の年齢構成の適正化」「専門性の高い人材の獲得」が多い。
- 2022年度の採用予定を雇用形態別にみると、『中途採用』の正社員が65.5%で最多となり、前年とほぼ同水準であった。次いで『非正規社員』（38.7%）では前年よりやや低下、『新卒採用』『外国人技能実習生』は上昇した。
- 今後の人材確保・補完に向けた取り組みには、雇用形態面では「中途採用の積極化」が最も多く、施策面では「賃金改善」「人材育成の強化」「設備導入による省力化・合理化」が挙げられた。
- 今後、企業は、①設備投資による業務の効率化や賃金制度をはじめとする雇用制度の整備を図る、②企業成長に向けて必要とする人材の能力や要件を明確にして、採用や人材の育成を図ること、特に、採用に当たっては女性や外国人、障害者等も含め多様な人材の獲得を検討していく、ことがより一層必要となろう。